

川上ダム通信

2015
3
月号



独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所
〒518-0294 三重県伊賀市阿保 251 番地 TEL: 0595-52-1661 (代)

Vol. 114
Since 2005

川上ダム通信は川上ダムホームページでもご覧いただけます。
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami> 又は「川上ダム通信」で検索
ご意見・ご感想はこちらへ <mailto:somu@lily.ocn.ne.jp>



川上ダム早期完成に向け固く握手

～甲村水資源機構理事長、岡本伊賀市長を表敬訪問～



固く握手を交わす岡本市長と甲村理事長

2月5日(木) ^{こうむらけんゆう}甲村謙友水資源機構理事長が伊賀市役所を訪れ、岡本栄伊賀市長を表敬訪問しました。市長と理事長とは、平成26年5月22日に市長が当機構本社を訪問いただいた際に意見交換しており、直接の会談は今回で2回目となります。

理事長から、川上ダム事業実施計画変更手続きの同意についてのお礼を申し上げるとともに、引き続き川上ダム建設事業へのご理解とご協力をお願いしました。

市長からは「伊賀市の将来を考え、水源の確保が必要なため、早く安く川上ダムの建設をお願いしたい」との要望をいただきました。

当機構としては、岡本市長はじめ伊賀市民の皆様のご要望に応えることができるよう、引き続き伊賀市と緊密に連携して、1日も早い川上ダムの完成を目指して事業を進めてまいります。



【総務課 梅村喜重】

和やかな雰囲気のなかでの会談の様子

草刈りにも講習があるんです！！

2月6日（金）に、松阪市で行われた刈払機（草刈機）取扱作業安全衛生教育講習会を受講してきました。

私たちは、日頃から事業用地管理のために草刈機を使用して草刈りを行うことがあります。このような場合、事業者は作業員に対して、安全衛生教育講習を受講させることが労働安全衛生法で規定されていることをご存じでしょうか。

今回受講した講習では、写真のような装備を身につけた実技もあり、草を刈るときには刈刃の前方左側3分の1を使って右から左に刈払うなどの基本的な操作方法や、刈刃の前方右側を木などに当てると右側へ大きく跳ね返るキックバックという現象で、実際に起こった事故事例を挙げて、障害物の近くを刈るときは反時計回りに刈るなど、状況ごとの注意点について説明していただきました。

本講習では危険なことを危険と知らないことが一番危険であり、知識をつけるだけで多くの事故は減らすことができると再認識しました。

日頃、草刈機を使用される皆さんも、今一度初心に戻って安全対策を見直してみてもはいかがでしょうか。

【第一用地課 高橋重樹】



草刈り時の基本装備の一例

付替県道青山美杉線工事～トンネル舗装工事～

先月号でも少し紹介しましたが、今年の3月完成を目指して、現在「北野トンネル」内の舗装工事を行っています。

舗装と聞くとアスファルト舗装を連想される方が多いと思いますが、この「北野トンネル」ではアスファルト舗装ではなくコンクリート舗装を行っています。コンクリート舗装はアスファルト舗装に比べて、施工性や維持修繕の面では劣りますが、耐久性に優れ路面反射率が高くトンネル内をより明るくすることができるため本工事でも採用されています。

「北野トンネル」は平成24年5月に概成しており、残りの付帯工事のうち、この舗装工事のほか、車線や照明設備についても今後施工していく予定です。

【工事課 飯島芳則】



鉄筋付設状況



コンクリート打設状況



舗装施工状況

～ハラスメントのない職場づくりに向けて～

1月22日（木）、川上ダム建設所と木津川ダム総合管理所合同で、人権問題（ハラスメント）研修を実施しました。本研修では、職場のハラスメント防止を目的として、三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」から講師をお招きし、「ハラスメントのない職場づくり～マタハラ・セクハラと男女共同参画～」と題して講演していただきました。

ハラスメントについては、セクハラ、パワハラの具体的な事例をグループでの討議・発表を交えて学習したほか、最近の状況として、マタハラ（マタニティ・ハラスメント：女性が妊娠・出産を理由に職場で受ける嫌がらせや不利益な扱い）や、パタハラ（パタニティ・ハラスメント：男性が育児参加する権利を侵害する言動や嫌がらせ、育児休業取得を妨害する等の行為）が問題となっていることを学びました。ハラスメントに当たるか否かの判断基準として、その言動で相手（自分）が不快と感じるかどうか、さらに、自分の家族にみられていてもその言動ができるか、自分の家族がその言動を受けていても平気でいられるかということが、一つの判断方法になるという講師のお話は、大変分かりやすく、納得のいくものでした。

今回の研修では、ハラスメントのない快適な職場づくりのためには、川上ダム建設所で働く一人ひとりが、他人の尊厳や人格を尊重する気持ちをもって接することが極めて重要であると再認識しました。

【総務課 木村数也】

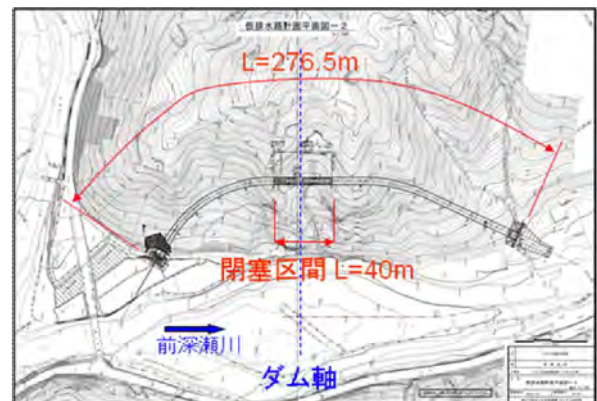


熱心に講演を聴く職員

ダム用語集 #5 仮排水トンネル

今回は、「仮排水トンネル」について紹介します。

ダムを造る場合、流水があると河川内作業ができないため、川の流れを切り替える必要があります。この切り替えの方法は幾つかありますが、山間部のダムでは普通、ダムのすぐ脇の山に迂回するようにトンネルを掘って切り替える方法が採用されます。このトンネルを「仮排水トンネル」といいます。一般的にコンクリートダムでは1年に1、2回発生する程度の流量を流せるように設計されます。



川上ダムの仮排水トンネル

仮排水トンネルは、ダム本体のコンクリート打設が完了してその役目を終えると、貯水池の湛水開始時に上図に示すような閉塞区間を設けてコンクリートで塞ぎ、ダムに貯めた水が下流に漏れないようにします。

川上ダムの場合、「仮排水トンネル」は、高さ約4.4m、延長276.5mで、ダム建設予定地の左岸側の山に造られ、平成23年1月に完成しています。



川上ダムの仮排水トンネルの内部

【工事課 田中英晶】

～伊賀の歴史を訪ねて (3)～

先月号に続き「新田水路」を紹介いたします。以下は、広報なびり平成25年8-3月号より引用

池に変わる新たな水利工事、約14キロメートルの水路構造

こうして誕生した伊賀郡新田村は、近隣からの移住者が入植し、一時は戸数2百軒を数えました。しかし、何分、地力に乏しい開墾地であり、村方の借金も生じ、加えて池の災害にも見舞われました。そこで大阪の豪商安井九兵衛の出資を受け開墾事業が進められていくのですが、明暦4年(1658)には用水源であった東ノ狭間池の堤防が切れ、小波田本田が冠水、新田村の御蔵(年貢用)や庄屋屋敷が流失、開拓の功労者である加納直盛が延宝元年(1673)に病死、延宝3年には大池の堤防決壊による



加納父子の遺徳をしのび創建された加納神社

大被害が生じてしまいました。いずれも梅雨時のことで、この延宝3年の水難を受けて、前年に父の後を継ぎ加判奉行に就任していた加納直堅が指揮をとり、池の修復を行うのではなく、新たな水利工事が始められました。これが今に残る新田水路なのです。太郎生の尼ヶ岳に発する水を、高尾の出合で取水して、小川内・川上・羽根を経て新田へ通じる近隣では類を見ない約14キロメートルにわたる水路の築造でした。残念ながら新田水路の工事については史料が少なく、詳しいことは、分からない部分もありますが約2年の歳月を費やし延宝5年ごろに完成したといわれています。

村の創設と用水路確保に現在も感謝の念を捧げる

新田地区の生命線である水路の難工事は、地元では直盛、直堅のおかげと伝えられています。新田水路が完成した三年後、不幸にして直堅は、天和元年(1681)備中(岡山県)石塔山銅堀事件にかかわって切腹することになりますが、新田の人々は、この父子二代にわたる村の創設と用水の確保に永世忘れることのできない崇敬の念を持ち続け、加納父子の遺徳をしのんで享保16年(1731)に「加納大明神」として加納神社を創建しました。新田地区と同地区の水利組合は今も毎年11月7日に伊賀市の大超寺にある直盛の墓前に詣で、加納神社の靈前に感謝の念をささげています。

次号に続く ※写真は記者が撮影

【総務課 梅村喜重】

読者からのお問合せについて

1月号で掲載しました「尼ヶ岳」について、読者の方から「平地から見て、どの山が尼ヶ岳なのか知りたい」とのご意見を頂きました。

下の写真は、伊賀鉄道依那古駅の近くを流れる木津川に架かる郡橋から上流に向かって撮影したものです。



イベントのお知らせ

第10回初瀬街道まつり

開催日時 平成27年3月1日(日)
午前10時～午後3時

開催場所 初瀬街道阿保宿周辺
交流の館「たわらや」・夢街道あお会館周辺

問合せ先 阿保地区市民センター
TEL:0595-52-2000

【広報誌発行事務局】

編集長 神矢(所長)
デスク 梅村(総務課長) 田中(工務課長兼工事課長)
記者 渡辺(総務課) 高橋(第一用地課)
桐山(第二用地課) 大谷(調査設計課)
金井(環境課) 飯島(工事課)
日隈(工務課)